



さざんか

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第6号(R5. 5. 1)

つつじが街を彩っています。白やピンクや赤など街路樹が道行く人の目を楽しませてくれます。つつじの花名は、「花が連なり、続いて咲く」が由来です。河東中では、これから体育祭に向けての取り組みが本格化していきます。つつじのように生徒同士がつながって様々な演技で花を咲かせる楽しい季節です。

体育祭ブロック長のメッセージ

ブロック長のメッセージの2回目です。今回は、ピンクブロック長と黄ブロック長に語ってもらいました。



【ピンクブロック長 丸谷 優衣 さん】

ピンクブロック長をさせていただくことになりました9年3組の丸谷優衣です。ブロック全体、学校全体の人が「楽しかった」「最高だった」と言えるような体育祭にするために、持ち前の大きな声でしっかり指示を出し、自分の全力を出して最高の体育祭にできるようにがんばります。そして、ブロックコンクールやいろいろな競技でブロックが優勝できるようにブロックリーダーと協力してブロックを引っ張っていけるようにします。よろしくお願いします。

【ピンクブロック長 和田 航太朗 さん】

この度ピンクブロック長になりました9年3組の和田航太朗です。僕はブロック長としてみんなに大きな声で正確な指示を出し、体育祭が終わった後は全校生徒、先生、そして保護者の方も「面白かった、最高だった」と言ってもらえるような体育祭にします。7年生には「かっこよかったな」など憧れをもってもらえるように頑張ります。8年生には去年よりも「楽しかった」と思ってもらえるように頑張ります。9年生には3年間で1番思い出に残る体育祭にしますので応援よろしくお願いします。



【黄ブロック長 中村 遥花 さん】

こんにちは。今回黄ブロック長になりました9年4組の中村遥花です。私はこの体育祭で皆が「今年の体育祭めっちゃ楽しかった!」と言えるようにしたいと思います。そのためにまず、ブロック長としてしっかり皆を引っ張り責任をもって何より笑顔を忘れずにやっています。リーダー達と協力して全力で取り組むので黄色ブロックが一丸となり、総合優勝、ダンス金賞をとれるように頑張っていきましょう!わかりにくい指示もあると思いますが、ついてきてくれるとうれしいです。これからよろしくお願いします。

【黄ブロック長 佐藤 友哉 さん】

こんにちは。この度黄ブロック長になりました佐藤友哉です。今回の体育祭は、久しぶりに一日かけてあるので、また新しい体育祭を作り上げたいと思います。さらに、今回の体育祭が全校生徒や先生方のみんなが「楽しかった~」と言えるような体育祭にします。これから黄ブロック長として責任をもって発言、行動し黄ブロックをどのブロックよりも最高のブロックにし、総合優勝、ブロックコンクール金賞を取りたいと思っています。黄ブロックのみなさん、一緒にがんばっていきましょう。みなさんよろしくお願いします。



「オリンピックは勝つことでなく、参加することに意義がある」 ～この言葉の真意は、これに続くフレーズにある～

「オリンピックは勝つことでなく、参加することに意義がある」—この言葉は、近代オリンピックの父といわれるフランスのクーベルタンという言葉です。古代ギリシアで行われていた運動の祭典を19世紀の終わりに復活させた人です。

ヨーロッパは、紀元前から年がら年中各地で戦争ばかり起こっていました。紀元前の古代ギリシアでは、4年に一度、戦争を中断して運動競技に興じるという都市国家間の決めごとがありました。クーベルタンは、このギリシアの風習を復活させ、この期間は戦争を一切やめて競技を競うという平和の祭典を復興しようとしていました。

冒頭の言葉は、勝ち負けにこだわらないことのとえとして使われますが、クーベルタンの真意は実はそこだけではありません。むしろ、この後に続く言葉はあまり知られていませんが、彼の言いたいことはここにあるような気がします。

「…人生は、成功するところに意義があるのではない。努力するところに意義がある。」とクーベルタンは続けました。つまり、物事の結果ではなく、大切なことはその取り組む過程にあるのだと言っています。

さらに、この後に続く言葉はもっと重要です。「自己を知る、自己を律する、自己に打ち克つ、これこそがアスリートの義務であり、最も大切なことである。」—スポーツ・運動・体育の意義を言って十分な言葉です。

上にあげたクーベルタンの言葉にあるオリンピックという言葉も、すべて体育祭に置き換えて読み直してみてください。体育祭に取り組む意味も同じではないでしょうか。河東中生には、こうした高い意識を持って日々の体育祭の練習に取り組んでほしいものです。



「犬は、なんでほえるの？」 ～小学生に、こう聞かれたら何と答えてあげますか？～

日曜日に家の近くの川の土手を夕日を浴びながら散歩していたら、小犬を連れた親子(母と姉妹?)の3人とすれちがいました。

小学生らしい女の子が上向き加減で聞きました。

「犬はなんでほえるの？」

きっと、その前にこの犬が別な犬にほえたのでしょう。

母か姉かどんなふうにか答えるのかと、聞き耳を立てました。

すると中学生らしいその子のお姉さん?はこう答えました。

「友達になって! って言ってるのよ。」

この中学生の感性に思わずほほがゆるみました。

僕には考えたことがない発想で、中学生の感覚にはかなわないなと思いながら家路に向かいました。

